

2027年度
大学院学生募集要項
(一般選抜、社会人特別選抜)

社会学研究科社会学専攻
修士課程
博士後期課程

松山大学大学院

〒790-8578 松山市文京町4番地2
TEL: 089-925-7111 (代表)
URL: <https://www.matsuyama-u.ac.jp/>

目 次

研究科長挨拶

社会学の学びと鍛錬の場によるこそ	2
1. 募集人員・選抜の種類	3
2. 出 願 資 格	3
3. 試 験 に 係 る 日 程	4
4. 出 願 手 続	4
5. 選 抜 方 法	6
6. 試 験 場 所	6
7. 受 験 上 の 注 意 事 項	6
8. 合 格 発 表	6
9. 入 学 手 続	6
10. 納 付 金	7
11. 私費外国人留学生の学費減免制度について	7
12. 私費外国人留学生への奨学金制度について	7
13. 長期履修学生制度について	7
14. 個人情報の取扱い	7
15. 社会学研究科社会学専攻演習担当者一覧	8

手続書類（本学所定の用紙）

1. 入学願書
2. 身上書
3. 受験者写真票・受験票
4. 研究歴・研究課題調書（修士課程・一般選抜の志願者のみ）
5. 志望理由書（修士課程・社会人特別選抜の志願者のみ）
6. 身元保証書（日本国籍を有しない者のみ）
7. 出願書類チェックシート
8. 検定料振込依頼票

社会学の学びと鍛錬の場によるこそ

松山大学大学院 社会学研究科長 水上 英徳

本研究科は、1972年開設の松山大学人文学部社会学科を基盤とし、修士課程と博士後期課程を併設する大学院として2006年に誕生しました。四国で唯一、社会学専攻の博士後期課程を有しており、家族、教育、地域、メディア、医療、環境、国際、歴史……といった社会学の幅広い研究領域をカバーする教員がそろった、西日本でも有数の社会学の教育・研究拠点をなしています。

本研究科の教育目標は、自律的市民の育成を基礎に置きながら、社会学の高度な専門的学識と研究能力とを身につけた人物を育てることにあります。社会学の発展に寄与することのできる研究者のみならず、専門的職業に従事するなど社会のさまざまな領域において問題発見とその実践的な解決に貢献できる人物の育成も目指しています。

そのため、大学の学部で社会学を学んだ学生はもとより、他の人文社会科学や福祉・医療などの分野を卒業した学生にも広く門戸を開いています。外国人留学生の方や働きながら学ぶ社会人の方も、これまで多く受け入れてきました。とくに修士課程では、主に、研究計画書等の内容確認にもとづく面接試験で入学できる社会人特別選抜入試制度を設置しています。入学後は、社会人院生の方々に向けて、夜間や土曜日の授業開講といった便宜をはかるとともに、修士課程の場合は2年間の学費で最大4年間、博士後期課程の場合は3年間の学費で最大6年間にわたり計画的に教育課程を履修し修了できる長期履修制度も設けています。これらの制度を活用し、ご自身の「現場」で抱いた問題関心を社会学の視点から学術的に研究し論文等にまとめられた社会人院生の方々は、これまで何人もおられます。

加えて、本研究科では、中学校（社会）及び高校（公民）の専修免許状の課程が認定されています。高度な教育専門職をめざす現職の教員のみなさんは、ぜひ本研究科の修士課程で研鑽を積んでほしいと思います。

さらに、本研究科の大きな特徴として、授業科目とは別に、教員と院生の全員が参加する研究報告会を定期的で開催していることがあります。そこでは、全員指導・全員議論を徹底し、院生のみなさんの研究報告に対して教員と院生の全員が真摯に熱く議論を交わしています。誰もがひとりの研究者としてコミットする、この自由で風通しのよい環境は、本研究科がとくに大事にしていることです。

人はみな社会について何かしら考えて日々の生活を送っています。本研究科では、日常生活で抱いた思いや考えを、社会学の専門的知識と想像力、そして実践的な問題解決力とをもとに鍛え上げ、より広く深く豊かに社会を考察し、様々な社会問題の解決の道を探求していきます。この鍛錬の場に飛び込んでみようという方々を、私たちは歓迎します。

2027年度松山大学大学院社会学研究科学生募集要項

1. 募集人員・選抜の種類

研究科・専攻	課程	募集人員	選抜の種類
社会学研究科 社会学専攻	修士課程	3名	一般選抜、社会人特別選抜
	博士後期課程	2名	一般選抜

2. 出願資格

■修士課程・一般選抜

(1)～(5)のうち、いずれかの資格を有する者。

(1) 日本国において、大学を卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者。又は、日本国籍を有する者で外国の大学を卒業した者及び2027年3月までに卒業見込みの者。

(2) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者。及び2027年3月までに授与される見込みの者。

(3) 次の①及び②のすべての条件を満たす者。

① 日本国籍を有しない者であって外国で16か年の課程の学校教育を修了した者。又はこれに準ずる者。

② 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」が280点(過去1年以内)以上の者。ただし、日本国外からの出願で、「日本留学試験」が実施されていない国・都市からの応募についてのみ、財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」N1(2009年度以前の試験は1級)を取得した者。

(4) 文部科学大臣の指定した者。

(5) 本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。

■修士課程・社会人特別選抜

入学予定時において、次の(1)～(5)のいずれかの資格を有する者で、有職者ないし3年以上の定職経験のある者、又は大学卒業後5年以上社会人(主婦など、社会の中で一定の役割を持ち、社会の一員として働いている者)としての経験を有する者。

(1) 日本国において、大学を卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者。又は、日本国籍を有する者で外国の大学を卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者。

(2) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者。及び2027年3月までに授与される見込みの者。

(3) 次の①及び②のすべての条件を満たす者。

① 日本国籍を有しない者であって外国で16か年の課程の学校教育を修了した者。又はこれに準ずる者。

② 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」が280点(過去1年以内)以上の者。ただし、日本国外からの出願で、「日本留学試験」が実施されていない国・都市からの応募についてのみ、財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」N1(2009年度以前の試験は1級)を取得した者。

(4) 文部科学大臣の指定した者。

(5) 本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。

■博士後期課程・一般選抜

(1)～(2)のうち、いずれかの資格を有する者。

(1) 日本国において、修士の学位を有する者及び2027年3月修士課程修了見込みの者。又は、日本国籍を有する者で外国の大学の修士の学位を有する者及び2027年3月までに修士課程修了見込みの者。

(2) 次の①及び②のすべての条件を満たす者。

① 日本国籍を有しない者であって外国で修士の学位を有する者。又はこれに準ずる者。

- ② 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」が280点(過去1年以内)以上の者。
ただし、日本国外からの出願で、「日本留学試験」が実施されていない国・都市からの応募についてのみ、財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」N1(2009年度以前の試験は1級)を取得した者。

3. 試験に係る日程

課程	入試期	出願期間※	試験日	合格発表日時
修士課程	第Ⅰ期	8月24日(月)～9月4日(金)	9月16日(水)	9月25日(金) 10時
博士後期課程	第Ⅱ期	1月18日(月)～1月29日(金)	2月12日(金)	2月19日(金) 10時

※出願期間中の窓口受付時間は9時から16時までとする。ただし、土曜・日曜・祝日は受付を行わない。

郵送による場合は「レターパック」を使用し、出願締切日16時必着とする。

4. 出願手続

(1) 検定料 30,000円

※所定の用紙を使用し、出願締切日の15時までに、金融機関から納入すること。

※一旦納入した検定料は理由の如何を問わず返還しない。

(2) 諸注意

※身体に障がいがあり、受験に際し特別の配慮を必要とする志願者は、出願開始日の1か月前までに申し出ること。

※日本国外から日本国籍を有しない者が出願する場合は、出願期間にかかわらず事前に出願書類の提出を求められる場合があるので、早めに問い合わせをすること。

(3) 出願書類等

※受験者写真票の写真は、試験当日の本人確認及び入学後の学生証に使用する。

※出願書類及び記載内容に不備がある場合は受理できない場合がある。出願書類チェックシートを用いて、誤りや漏れがないように確認すること。なお記載に不明な点がある場合は、電話で問い合わせることがある。

※一旦受付した出願書類は返還しない。また、受理できなかった出願書類等は本学が責任をもって処分する。

※各欄の○印は必須、△印は必要に応じて用意すること。

※書類の作成については、ペンまたはボールペンにより楷書で記入すること。

提出書類	摘要	修士・ 一般	修士・ 社会人	博士 後期
イ 入学願書	本学所定の用紙 別掲の「授業担当者表」を参照すること。	○	○	○
ロ 身上書 (入学願書ウラ面)	本学所定の用紙	○	○	○
ハ 受験者写真票等	本学所定の用紙	○	○	○
ニ 最終出身大学の大学卒業(見込)証明書*	最終出身大学が中国の場合は、その卒業証書のコピー及び「公証書」の原本を提出すること。	○	○	○
ホ 最終出身大学の成績証明書*	厳封のこと	○	○	○
ヘ 研究歴・研究課題調書	1,000字程度(本学所定の用紙)	○		
ト 研究計画書	A4判で8,000字程度(原則としてワープロ使用)、これまでの研究歴と入学後の研究課題、及びその進め方等を明示すること。		○	○
チ 志望理由書	本学所定の用紙		○	
リ 受験承諾書	有職者で、勤務を継続しながら就学しようとするものは、職場上司の「受験承諾書」を提出することが望ましい。	△	△	△
ヌ 修士の学位取得(見込)証明書	修士学位取得が中国の場合は、学位取得証明書及び「公証書」の原本を提出すること。			○
ル 修士課程の成績証明書	厳封のこと			○
ヲ 修士論文の写し1部				○

提出書類	摘 要	修士・ 一般	修士・ 社会人	博士 後期
ワ 修士論文の要旨 4部	A4版で 8,000 字程度(原則としてワープロ使用)			○
カ 検定料振込控(写)	所定の用紙を使用し、30,000 円を振込後、本人控えを複写して提出すること。	○	○	○
ヨ 日本国籍を有しない者については、以下の①～④の書類も用意すること。				
①身元保証書	本学所定の用紙(署名捺印) ※身元保証人は、日本国籍を有する者、又は日本に永住する外国人及びそれぞれに準ずる者(出入国管理及び難民認定法別表第二に定める)に限る。	○	○	○
②印鑑登録証明書	署名欄に捺印した印鑑の「印鑑登録証明書」を添付すること。	○	○	○
③身元保証人の年間の所得及び納税額を証するもの。住民税又は所得税の納税証明書、源泉徴収票、確定申告書(写)のいずれか。		○	○	○
④身元保証人の身分を証明できるもの(運転免許証等)のコピー。 ※身元保証人が日本国籍を有しない場合は、住民票又は住民票記載事項証明書を提出すること。		○	○	○
タ 日本国籍を有しない者で、かつ、「日本留学試験」又は「日本語能力試験」により出願する者は、次の書類も用意すること。 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」の受験票のコピー、又は財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」の合否結果通知書及び日本語能力認定書のコピーを提出すること。 ※原則として提出された書類は返却せず、個人情報保護法に基づき、松山大学で厳重に保管する。		○	○	○
レ 出願書類チェックシート	所定の用紙を使用し、出願前に適切にチェックすること。	○	○	○

*独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学位を授与された者は上記ニ・ホに代えて、「学位授与証明書(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)」、又は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から専攻科の認定を受けている短期大学長又は高等専門学校長等の発行する「学位授与申請(予定)証明書」。

(4) 出願書類の提出先及び問い合わせ先

〒790-8578 松山市文京町4番地2

松山大学教務部教務課 大学院社会学研究科

電話 089-925-7111(内線 2305) E-Mail: mu-kyomu@matsuyama-u.jp

※提出は、持参又は郵送(「レターパック」使用)すること。

5. 選抜方法

■修士課程・一般選抜

選考は下記の試験結果及び出願書類を総合的に行う。

試験科目		試験時間
外国語	英語（日本語を母語としないものは免除）	9:00～10:20(80分)
社会学		10:40～12:00(80分)
面接	出願書類等にもとづいて行う。	13:50～

備考

外国語(英語)については、和訳・読解の問題が出題される。なお、辞書(持参)の使用を認める。
(ただし、電子辞書の使用は認めない。)

■修士課程・社会人特別選抜

選考は身上書、志望理由書(1,000字)、研究計画書(8,000字、勉学歴含む)の内容確認に基づく面接試験、ならびに成績証明書を総合し、大学院での教育を受ける能力と研究意欲、入学後の研究計画性を総合して行う。

試験科目		試験時間
面接	出願書類等にもとづいて行う。	13:50～

■博士後期課程・一般選抜

選考は下記の試験結果及び出願書類を総合判定して行う。

試験科目		試験時間
外国語	英語（日本語を母語としないものは日本語）	9:00～10:20(80分)
面接	修士論文について行う（ただし、外国語で書かれたものは日本語訳による）	12:30～

備考

1. 外国語(英語)については、和訳・読解の問題が出題される。なお、辞書(持参)の使用を認める。
(ただし、電子辞書の使用は認めない。)
2. 日本語試験においては、辞書の使用は認めない。

6. 試験場所

松山大学 松山市文京町4番地2（試験教室等の詳細は、受験票と併せて通知する。）

7. 受験上の注意事項

- (1)各試験において、試験開始時刻の10分前には指定の教室に集合すること。
- (2)受験に際しては、必ず受験票を持参すること。
- (3)大学内への自動車での乗り入れはできない。

8. 合格発表

第Ⅰ期 2026年 9月25日(金) 10時

第Ⅱ期 2027年 2月19日(金) 10時

合格者発表については、松山大学オフィシャルサイトに掲載するとともに、合格者には合格通知書を送付する。

9. 入学手続

入学手続は、松山大学入試情報サイト(<https://nyushi.matsuyama-u.ac.jp/nyugakutetsuzuki/>)に各入学試験制度合格者の手続期間に応じた情報を掲載する。

(1)入学手続期間

第Ⅰ期合格者 2026年10月1日(木)～2026年10月22日(木) 16時[必着]

第Ⅱ期合格者 2027年2月25日(木)～2027年3月5日(金) 16時[必着]

(2) 学費の納付(金額については「10. 納付金」を参照)

第Ⅰ期合格者:通知する金額の入学金を所定の方法で納入すること。在学料については、2月下旬に通知する前期分の納付金額を2027年3月5日(金)15時まで所定の方法で納入すること。

第Ⅱ期合格者:通知する金額の入学金及び前期分在学料を2027年3月5日(金)15時まで所定の方法で金融機関から納入すること。

※一旦納入した入学金は、理由の如何を問わず返還しない。在学料は、所定の期日までに入学辞退を届け出た場合は返還する。〔入学辞退届を郵送する場合は、簡易書留にて2027年3月31日(水)(必着)までに、直接持参する場合も、2027年3月31日(水)(土・日・祝日を除く8時30分～17時)までに教務部教務課へ提出すること。〕

(3) 提出書類 ※提出書類については、合格通知の際、別途案内する。

住民票又は住民票記載事項証明書(原本)	1通(2027年2月以降の証明日付があるもの)
誓約書・同意書、保証書	本学所定の用紙
卒業証明書	〔修士課程・一般選抜・博士後期課程〕応募者のうち、出願時「見込」の者のみ1通(2027年3月23日(火)までに提出すること。)
学位取得証明書	〔博士後期課程〕応募者のうち、出願時「見込」の者のみ1通(2027年3月23日(火)までに提出すること。)

※証明書を期日までに提出できない場合は必ず事前に申し出ること。

10. 納付金

2027(令和9)年度の納付金額は未定である。(下表は2026(令和8)年度実績)

	学外出身者	本学(学部・大学院)出身者
入学金	126,000円	72,000円
在学料(年額)	570,000円 (納付は、前期285,000円、後期285,000円に分納である。)	

※本学大学院の修士課程を修了し、ひきつづき博士後期課程に進学する者に対しては、入学金全額を免除の上、在学料を修士課程入学時の金額とする。

※委託徴収分(年額)

温山会終身会費 16,000円(本学出身者を除く)を2年間にわたり、委託徴収する。

温山会とは、松山大学各学部、大学院、短期大学と、その前身である松山高等商業学校、松山経済専門学校、松山商科大学の卒業生を正会員とする本学の同窓会。

11. 私費外国人留学生(在留資格が「留学」)の学費減免制度について

松山大学私費外国人留学生学費減免規程に基づいて、入学年度は半額減免、翌年度からは前年度の学業成績及び資格審査により、「60%減免」、「半額減免」又は「30%減免」が適用される場合がある。ただし、必ずしも対象者全員に適用されるとは限らない。

※詳細については、学生部国際交流課へ問い合わせること。

12. 私費外国人留学生への奨学金制度について

修学状況等により、各種奨学金が支給される場合がある。

※詳細については、学生部国際交流課へ問い合わせること。

13. 長期履修学生制度について

社会学研究科では、修士課程で2年間の在学料で3年間又は4年間、博士後期課程で3年間の在学料で4年から6年間履修できる長期履修学生制度を導入している。

※詳細については社会学研究科担当者(教務部教務課)へ問い合わせること。

14. 個人情報の取扱い

出願時に提出いただいた個人情報は、「学校法人松山大学個人情報保護に関する基本方針」に則り利用及び管理をします。出願前に「学校法人個人情報保護に関する基本方針」をご参照ください。

15. 大学院社会学研究科社会学専攻演習担当者一覧

修士課程

演習

市川 正彦

地域社会学課題演習

大倉 祐二

社会病理学課題演習

小松 洋

環境社会学課題演習

永野 武

国際社会学課題演習

水上 英徳

社会学史課題演習

森岡 千穂

現代メディア論課題演習

2026年6月現在

備考

1. 院生は入学後所定の期日までに指導教員を定め、研究科委員会の承認を得るものとする。ただしその際、専任教員が研究計画ガイダンスと個別相談を行い、指導教員を決定する。
2. 指導教員の担当する課題演習は必修とし、2年間にわたって履修するものとする。
3. 科目履修については年度初めに履修モデルも参考にしながら、指導教員が院生ひとりひとりの履修計画について個別に面談し、2年間の適切な履修プランを共同で作成する。
4. 修士課程の修了要件は、修士課程に2か年以上在学し、必修の基礎科目である社会学特論ⅠとⅡの合計4単位、及び専門科目から10科目20単位以上を選択して修得し、必修の課題演習8単位を修得し、合計32単位以上を修得したうえで、必要な指導を受けて修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することが要件である。
5. 上記に合格した者には、修士(社会学)の学位が与えられる。
6. 演習担当者一覧の表は変更することがある。

博士後期課程

演習

市川 正彦

地域社会学特殊演習

大倉 祐二

社会病理学特殊演習

小松 洋

環境社会学特殊演習

水上 英徳

社会学史特殊演習

2026年6月現在

備考

1. 院生は入学後所定の期日までに指導教員を定め、研究科委員会の承認を得るものとする。
2. 指導教員の担当する特殊演習は必修とし、3年間にわたって履修するものとする。
3. 博士後期課程の修了要件は、本大学院に3年以上在学し、特殊研究4単位以上、必修の特殊演習 12 単位を修得した上で、必要な研究指導を受けて博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することである。
4. 上記に合格した者には、博士(社会学)の学位が与えられる。
5. 演習担当者一覧の表は変更することがある。



〒790-8578 / 松山市文京町4番地2
TEL(089)925-7111(代)